

※資料 1. ツイッター上でのユーザ間取引のツイートサンプル

サンプル①

右記画像はグッズと現金取引のツイート。

画像上の各グッズの希望価格を明記したうえで「送料」という言葉で郵送を希望していることがうかがえる。

一部グッズは同じものが並んでいるが、

複数の商品の中から自分の欲しいグッズを単品で買えるように出品側のユーザ配慮うかがえる。

しかし、リプライ等を見ても取引が完了しているのか、
進捗状況が確認できず、直接出品側ユーザに問い合わせをする必要がある。



サンプル②

右記画像はグッズと現金取引のツイート。

特筆すべき点は、手渡しの希望と画像での取引概要・説明である。

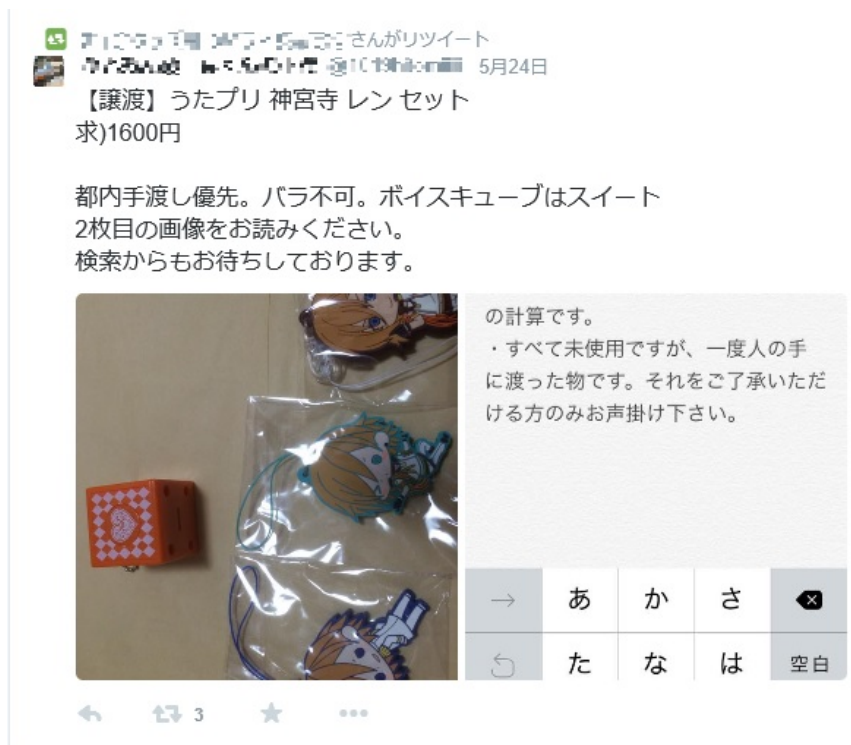
買手側ユーザが複数いる場合等、出品側の都合・判断で手渡しできる買手側ユーザを優先して取引するという希望が記されている。

ツイッターの特性として、1 投稿は 140 文字以内という文章制限がある。

その特性を回避するために、画像という形で取引の概要や説明をしている。

このユーザの場合は、スマートフォンのメモ機能をスクリーンショットして画像化した後、出品投稿に添付して使用している。

前述しているが、この投稿も取引状況が不明瞭であるため、買手側ユーザにとっては分かりにくい。



サンプル③

右記画像は、出品側ユーザと買手側ユーザとの取引開始時のサンプル画像である。

このように、取引希望のユーザは出品ツイートに対してリプライをして自身の希望を伝える。その後、推測であるが、ダイレクトメッセージ機能を使って商談をしているのか、これ以降の投稿は無い。

